

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 7 0
平成 19 年 10 月 25 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

小さい「つ」

文字入力を覚えるにも、教えるにも、最大の(?)難関が、この小さい「つ」です。

1年生でアルファベットを使った文字入力(ローマ字入力)を始めたときにきちんと説明しますが、2年生になっても3年生になっても、4年生になっても「センセー、小さいツはどうやって入れるんですか?」という質問が後を絶ちません。

唯一「ん」以外は、子音 + 母音でカナが表示されます。母音を「足して」作ることできるカナを、パソコンでは「1文字」と考えるのが自然です。清音だけでなく、濁音も半濁音も、拗音までもが、「1文字」です。

パソコンでは、「が」は「か」とは別の文字です。どちらも子音一つに母音を付けることで作ることができ、パソコン上で「一マス」を占めます。つまり「1文字」です。

小さい「や・ゆ・よ」などの小さい文字は、その前の文字と一緒に、子音二つに母音を付けて作ります。「二マス」使いますが、母音一つで同時に表示されるので、文字入力では「1文字」と考えます。

これはどちらも、「飾り付き文字」として授業では説明しています。

では、小さい「つ」(促音)はどうでしょう。

一般的にローマ字入力では、小さい「つ」の後ろに続く文字の子音を重ねることで作ります。つまり、子音二つに母音を付けることで小さい「つ」を作ります。

これは、「や・ゆ・よ」などの小さい文字を作るときと同じですね。

小さい「つ」も、実は、「飾り」と考えることができるわけです。ただし、これは特別に、文字の<前に>付く飾りです。

「や・ゆ・よ」以外の小さい文字も、日本語入力システム(ATOKやMS-IMEなど)では、アルファベットでの入力の仕方が決まっていて、ほとんどの小さい文字が子音一つまたは二つ + 母音で「飾り付きの文字」として作ることができるようになっていきます。(ふぁ FA、てい THI、など)

ちなみに、単独でこれら小さい文字を書きたいときには、仮名表記の前に L または X を付けます。(っ LTU、LTSU、XTU、XTSU など)「あっ!」のように書きたいときに使います。